



元気っ子

No.229 ながさわ保育園

平成 28 年 9 月号

園 長 市 川 温 予

8月は毎日、太陽と土と水を友とする夏の自然を子ども達は存分に満喫できたと思います。夏空の下でプール、水遊びをする子ども達の表情は最高です。どの子もきらきらと目を輝かせ、その子なりの楽しみ方で“笑顔・笑顔・笑顔”です。子ども達はその時その時を一生懸命に生きているんだといつも思います。子どもは楽しいこと、好きなこと、やりたいことをしている時、最も生き生きとし、自分というものを育て、いろんなことを学んでいきます。大人も子どももいろんな年齢の人がいて、いろんな声が飛び交っている生活環境の中で、いろんな刺激を受けながら育っています。

この夏、子ども達はまた大きく成長したように思います。プール遊びでもできなかったことができるようになったり、捕まえられなかったセミが自分で捕まえられるようになったりと一歩ずつ前進です。セミ捕りでも、セミは羽化するために木に登りますが、ざらざらした所でないと登れない、こうした環境があってはじめてセミになるということも実際に目にして知っていきます。また、子ども達のできるようになったその子の頑張りや思いに先生達も寄り添い、「よかったね。がんばったね。一生懸命にやったからできるようになったんだね。」など、ほめて認め言葉をかけ、一緒に喜んでいきます。

子ども達の挑戦をきちんと見守りながらおらかな目で応援すること、子ども自らが達成感を感じ、それをほめられることで自己肯定感は育まれていくのだと思います。このように子どもの育つ力を信じ、育っていくのを待ってあげることが大切だと私はいつも思っています。そしてきょうだい、友達との遊びやけんかは有益な体験となります。この体験によって社会性や我慢や約束事の基礎が身につくのだと思います。

子どもの育つ力を信じ、子どもが育っていく姿をゆっくり見守ってあげましょう。

日中はまだまだ暑いですが、だんだんと夕方になると風が心地よく感じるようになってきました。園庭で合唱のように鳴いていたセミがあおむけになって動かなくなっている姿をよく見るようになりました。必ず目にするセミの最後の姿です。「夏が過ぎていくんだなあ」と思います。

これから秋に向かい、過ごしやすくなるので、戸外で思いっきり身体を動かし、夏に得た力をもとにいろんなことに挑戦できるような環境をつくっていきたいと思います。